本陣となった。

(3) 竜　勝　寺

筑波町小田にある曹洞宗の名刹である。鐘名によるとこの寺の創建は延文六年（一三六一）小田城主孝朝のとき最初の銅鐘が作られたというから少くとも南北朝時代には存在したことは明らかである。もと宗福寺という寺名であったが、慶長七年の徳川家の朱印状に間違って竜勝寺となっていたのでそのまま竜勝寺になったといわれている。

鎌倉の様式をもった三門が立派で文化三年（一八〇六）から十年を費して完成したもので楼上には十六羅漢の像が安置してある。

(4) 法　雲　寺

臨済宗建長寺派の寺。新治郡新治村高岡にある。正慶元年（一三三二）小田宗知（小田五代の城主）の第五子復庵宗己（大光禅師）の開基である。復庵宗己は延慶二年入元、中峰和尚について学んだ名僧で後光厳天皇や足利尊氏の尊信を受けた。天正二年四月十三日火災の為め焼失。南門は元亨三年（一三二三）に建築されたもので寺内で最も古い。寺宝も多いが絹本着色高峰原妙像、復庵宗己像自賛各一幅は国定重要文化財であり、足利尊氏書状、阿弥陀如来立像（鎌倉末期）、小田治久、氏治画像、釈迦ねはん図等はいずれも県指定文化財になっており、勅使門に掲げてある大雄山の額は光厳天皇の勅額である。なお、境内に小田家十代持家、一一代朝久、十三代治孝、十四代政治の墓、十五代氏治の供養碑がある。

法雲寺の開山忌は旧九月十四日で、この日にはいわゆる開山市（高岡市）という市がたち近郊近在からの人出で賑わったところである。

(5) 藤　沢　城　址

新治郡新治村城の内にある。広さ一万平方米、やゝ方形に近い。堀などは今尚よく残っている。南方崖の中腹に抜け穴があり本丸物見台に通じている。小田城の支城として築かれたものといわれている。築城された年代は詳かでない。永禄十二年十月手這坂の戦に佐竹義重に破られて敗走した小田天庵氏治は小田城も守ることができず藤沢城に逃れた。その後、小田、佐竹の間に争奪が続き天正十三年氏治は子金寿丸を人質に出して佐竹義重と和し、この城を与えられ天正十四年氏治が入った。しかし秀吉の天下統一、豊臣、佐竹の融和、小田原北条氏の滅亡などの状勢の変化によって、氏治藤沢城を退き結城秀康に属するに及び廃城に帰した。藤原藤房元弘二年五月北条高時の為め常陸に流された時、小田治久は藤沢城内の極楽寺に置いたので翌元弘三年六月帰京まで凡そ一